

# ゆんたく

2026年3月  
VOL.42(法人創立95周年特別号)



つなぐ、つながる。都島友の会



# 社会福祉法人 都島友の会 創立 95 周年の歩み

社会福祉法人 都島友の会  
理事長 渡久地 歌子



都島の地に根を下ろし都島公園での青空保育から山野家の善意で借用できた土地、園舎（私立都島幼稚園）が昭和6（1931）年にできて、幼児教育が始まってから今年の令和8（2026）年3月1日、都島友の会は創立95周年を迎えることになりました。

その間、日本の国は未曾有の世変に遭い、昭和6（1931）年満州事変、昭和12（1937）年支那事変、昭和16（1941）年太平洋戦争と苦難の時代が続きました。

大変な社会情勢の中「子どもは国の宝」の思いで親、家庭、子どもたちに手を差し延べてきました。

昭和20年3月、大阪府知事名で都島幼稚園の閉鎖命令が出され、同月末に最後の卒園児を送り閉鎖した後、6月の大阪空襲で園舎が焼けてしまいました。その2ヶ月後の8月15日、日本は敗戦となりました。

当法人の創設者比嘉正子はあらゆるものを犠牲にし戦時下を守り続け、更にわが子16歳（長女）と14歳（長男）を昭和19年1月と2月に続けて病死させてしまった等の思いに虚脱と懺悔の日々を送っていました。

何も手を差し延べる事ができない自分に

激しい憤りを感じていた時、折しも焼野原をさまよい食糧を求めて歩く姿、卒園生たちが「ぼくたちお家がない」と寄ってくる姿を見て、この子どもたちを見放してよいのか、我が子の墓を建立する為に蓄えてあったお金を生きているこの子どもたちの為に役立てようとして作りながら「子どものお宿」「子どもたちのやすらぎの家」として建てたのが、都島児童館（保育部・幼稚部・学童・教育クラブ・母の会）のはじまりでした。

子どもたちは、ここに来れば何か食べられる、安全で安心できる、小学校に行っている間、妹や弟は保育部の先生が預かってくれる、授業が終われば自分はこの家に帰る宿題も勉強もでき、図書室やこたつもある。そろばん・習字・絵・ピアノ等のクラブ（習いごと）もある。夕方には親が迎えに来てくれる。どんなバラック小屋でも、子どもたちには楽園だったのです。

昭和26年8月には、診療所を設けました。「無知と貧困は病魔を広げる」園児、職員、家族、地域の皆さんの健康を守る・健康であってこそ前へ進めるとの理念でした。

戦後の混乱期を経て、昭和・平成・令和と、都島の街は大きく変わってきました。大手企業の工場移転に伴い、大規模マンションの建設など街づくりが進められるなど、生活環境の変化は著しいものがあります。

都島友の会は、この変化に対応し、また子どもたち、地域の皆様にご利用いただくため、保育園、幼保連携型認定子ども園、そして高齢者施設を整備してきました。

現在は0歳児から100歳過ぎまでの方々が過ごされる都島友の会。地域の皆様を支えられてきた95年の都島友の会の歩みを左ページ「沿革」でご紹介したいと思います。

1931年(昭和 6)	3月	青空幼稚園開設（名称 北都学園）
1934年(昭和 9)	9月	私立都島幼稚園認可（昭和7年 名称変更）
1941年(昭和16)	3月	創立10周年
1945年(昭和20)	3月	大阪府知事から都島幼稚園閉鎖命令
1945年(昭和20)	6月	戦災のため園舎消失
1949年(昭和24)	11月	都島児童館完成
1950年(昭和25)	1月	都島保育所開設（都島児童館内）
1950年(昭和25)	3月	都島友の会が財団法人第1号として大阪府知事より許可
1951年(昭和26)	3月	創立20周年
1951年(昭和26)	8月	都島診療所開設
1952年(昭和27)	5月	厚生大臣より社会福祉法人都島友の会への組織変更認可
1954年(昭和29)	4月	増床し都島病院発足
1961年(昭和36)	3月	創立30周年
1964年(昭和39)	7月	都島児童館が児童厚生施設として認可
1966年(昭和41)	6月	都島乳児保育センター開設（2～4階は賃貸住宅あやなす荘）
1971年(昭和46)	3月	創立40周年
1972年(昭和47)	12月	都島児童センター新築完成（児童館 保育所 療育園 学童保育室 こども劇場）
1973年(昭和48)	5月	都島第二乳児保育センター開設（都島病院閉鎖）
1974年(昭和49)	6月	沖繩 渡保育園開設
1976年(昭和51)	6月	都島東保育園開園（大阪市より運営受託）
1976年(昭和51)	7月	都島こども園開園（大阪市より運営受託）
1981年(昭和56)	3月	創立50周年
1982年(昭和57)	5月	沖繩 松島保育園開設
1983年(昭和58)	4月	都島友洲保育園開設
1990年(平成 2)	4月	都島児童館子どもの家事業開始 （平成26年 留守家庭児童対策事業 平成27年～放課後児童健全育成事業）
1991年(平成 3)	3月	創立60周年
1991年(平成 3)	4月	都島桜宮保育園開設
1992年(平成 4)	4月	都島第二乳児保育センター——時預かり事業開始
1992年(平成 4)	11月	初代理事長 比嘉正子死去
1998年(平成10)	7月	都島第二乳児保育センター地域子育て支援拠点事業開始
1999年(平成11)	3月	友洲地域在宅サービスステーションひまわり開設
2001年(平成13)	3月	創立70周年
2001年(平成13)	8月	都島友洲乳児保育センター開設
2002年(平成14)	4月	特別養護老人ホームひまわりの郷開設
2002年(平成14)	4月	特別養護老人ホームひまわりの郷生活困難者支援事業開始
2005年(平成17)	4月	都島友洲乳児保育センター病後児保育開始
2006年(平成18)	3月	沖繩 渡保育園新園舎竣工
2006年(平成18)	12月	二代理事長 仲田貞子死去
2009年(平成21)	1月	沖繩 松島保育園みわらび館増設
2010年(平成22)	3月	友洲児童センターつどいの広場事業開始
2010年(平成22)	9月	成育保育園開設
2011年(平成23)	3月	創立80周年
2011年(平成23)	9月	ひまわりネット（子育て 障がい 介護 なんでも相談室）開設
2011年(平成23)	11月	居宅介護支援ひまわりⅡ開設
2012年(平成24)	4月	都島こども園が知的障がい児通園施設から児童発達支援センターに名称変更
2013年(平成25)	8月	都島保育所建替え 都島児童センターに名称変更
2013年(平成25)	9月	比嘉正子地域貢献事業研修センターに名称変更
2014年(平成26)	4月	都島児童デイサービスそれいゆ開設
2015年(平成27)	4月	都島児童センター・友洲児童センター（名称変更 都島友洲保育園） 成育児童センター（名称変更 成育保育園）が幼保連携型認定子ども園として認可
2015年(平成27)	4月	特別養護老人ホームひまわりの郷 介護職員初任者研修事業開始
2016年(平成28)	3月	創立85周年
2016年(平成28)	4月	大阪市から都島東保育園（複合施設）を取得
2016年(平成28)	4月	都島こども園が大阪市より移管 こども発達サポートステーションそれいゆに名称変更
2016年(平成28)	10月	成育児童センターつどいの広場事業開始
2017年(平成29)	1月	都島桜宮保育園分園設置
2018年(平成30)	3月	都島桜宮保育園増築改修工事完成
2018年(平成30)	5月	保育士等キャリアアップ研修事業開始
2019年(平成31)	4月	特別養護老人ホームひまわりの郷にカフェテリアひまわり設置
2019年(平成31)	4月	桜宮児童センター（名称変更 都島桜宮保育園）が幼保連携型認定子ども園として認可
2019年(令和 1)	12月	都島東保育園・こども発達サポートステーションそれいゆ新園舎完成
2020年(令和 2)	1月	都島東保育園がひがみや児童センターに名称変更し新園舎で業務開始
2020年(令和 2)	4月	都島乳児保育センター新園舎竣工 訪問介護ひーぐるま事業開始
2021年(令和 3)	3月	創立90周年
2021年(令和 3)	4月	ひがみや児童センターが幼保連携型認定子ども園として認可
2023年(令和 5)	2月	都島児童館「ぼくらの家 北都」竣工
2025年(令和 7)	11月	成育児童センター増築工事着工
2026年(令和 8)	3月	創立95周年
2026年(令和 8)	4月	都島乳児保育センター誰でも通園制度開始（予定）
2031年(令和13)	3月	創立100周年を迎えます

法人創立95周年 記念イベント  
 えがおの花咲く ひまわりっこ  
 egaonohanasaku himawarikko



各園の3.4.5歳児が人形劇団クラルテによる「うさぎさんのおうち」・「ゴリラのパン屋さん」を観劇



劇団の方とのユーモアあふれるやりとりを通して笑顔が広がり、あたたかな雰囲気にもまれたひとときとなりました



各園の1.2歳児が人形劇団くりきんとんによる「おおきなかぶ」を観劇



令和8年秋頃

竣工 予定



令和8年  
1月15日  
地鎮祭



園児代表として参加した5歳児みどりくじら組は厳かな雰囲気の中各業者の方々、当法人の施設長と一緒に工事の安全と建物の永続、園児・保護者・職員の安寧を祈願しました

法人創立95周年事業



幼保連携型  
認定こども園

成育児童センター

増築工事

近隣説明会→施工業者との打ち合わせを終え工事がはじまりました  
 工事の移設作業では職員で力を合わせて体育遊具などを運搬しました

令和7年11月中旬  
着工



# 幼保連携型認定こども園 都島児童センター



子どもたちとともに



社会福祉法人都島友の会は比嘉正子初代理事長により昭和6年、青空幼稚園を設立。その6か月後には園舎が完成し名称を「北都学園」としました。由来は北斗七星の「北」と都島の「都」です。昭和7年には「私立都島幼稚園」に改称。昭和9年に認可され、これまで95年の歴史を刻んできました。



いつの時代も、大好きな遊具を囲みながら子どもたちの周りにはいつも友だちや保育者がたくさんいます。



## 母の会 そして、保護者会へ



(右から2番目の方が初代理事長です)

青空幼稚園を始めた昭和6年には母親たちと強い信頼関係にあった初代理事長。「母の会」が結成され、共に山野名誉園長に請願して園舎建設にこぎつけました。

母の会は現在の保護者会の前身です。当法人の歴史と同じく保護者会も95年の歩みを共にしています。資金はおろか食料やあそび場さえなかった当会を戦前、戦中、戦後と長い間支え続けただけでなく、子育てに関する勉強会を開催する等、母親同士、女性同士の緊密な関係を築きました。その伝統は受け継がれ、保護者会主催の様々な活動に活かされ現在ではたくさんのお父さんも加わり保護者の方々のつながりの広がりが見られます。

## 保護者とともに



令和7年度保護者会役員

## 地域とともに

都島友の会は、地域の皆様によって見守られてきました。地域の中で誰もが安心して子育てをできる拠点となることで、共に歩み、地域社会に貢献したいと考えています。

交通安全教室



勤労感謝の日



地域の方へイベント



小学校の見学会

制服リサイクル



夏祭り



からあげ  
ジュニア  
キャンデー  
ボックス



園の味を持ち帰り



ミッション  
ショー

# 幼保連携型認定こども園 都島児童センター

## 運動会

かつては太鼓やラッパを鳴らしながら町を練り歩いた鼓笛隊。今では運動会でマーチングを披露しています。



戦前の運動会の様子。この頃にはすでにお遊戯で円になって踊るフォーメーションを取り入れていることがわかります。

## 発表会



日本舞踊は現在でも引き継がれ、所作や物腰など美しい姿勢を身に付け発表会では劇、遊戯、合奏、日舞、和太鼓等年齢に合わせた演目を披露しています。

## 卒園式



第75回 卒園児



第1回 卒園児



昭和12年頃の園舎（戦前）



昭和28年頃の園舎（戦後）



昭和47年の園舎

私立都島幼稚園として認可されたものの、戦争で焼失。戦後の昭和24年11月に木造の都島児童館を建てて保育を再開しました。その後、入園希望者が増えたため改修を重ね、昭和37年には2階建ての園舎を増築。しかし、木造であるため老朽化が激しく雨が降るとバケツやたらいを持って走り回るありさまでした。こうした状況を解消するべく、新たな建設計画が立案されました。それが、

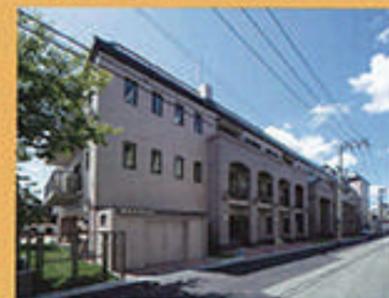
## 「都島チルドレンセンター（仮称）建設計画」！！！！

昭和47年12月、鉄筋コンクリート4階建ての新しい園舎が竣工。以後、平成25年に現在の園舎に改築されるまで40年間活躍しました。施設の名称は結局、

**「都島チルドレンセンターでは舌をかみそうだから、都島児童センターにするよ」**という初代理事長 比嘉正子の発案で決まりました。

## そして、平成25年に現在の園舎を竣工

現在の園舎は10年が過ぎ、平成27年4月には幼保連携型認定こども園に移行しました。



## 特別活動

専任講師による特別活動は小学校への就学後のことも見据え、英語やプログラミング活動も取り入れています。



体育活動

プログラミング活動



音楽活動



英語活動



# 幼保連携型認定こども園 友渕児童センター



幼保連携型認定こども園 友渕児童センターとしてスタートし今年で10年。「すべての子どもたちが、笑顔で成長していくために。すべての家庭が安心して子育てができ、育てる喜びを感じられるために」という、当初からの思いのまま現在も様々な活動やあそびを通して、子どもたちの成長を保護者の方や地域のみならず感じられる教育・保育を進めています。地域の方に見守られながら、子どもたちは四季の中でのびのび成長しました。あそび、自然、人とのふれあいを通して思いやりやたくましさを学んだ1年でした。



友渕児童センター（旧友渕保育園）は1983年（昭和58年4月）カネボウ工場跡地に民間デベロッパー（三井不動産、進和不動産、カネボウ不動産）が三鐘都市開発とタイアップして、大規模な超高層マンション街に着手、ベルパークシティの開発と時を同じくして開園しました。平成27年4月1日からは幼保連携型認定こども園の認可を受け、新たに「幼保連携型認定こども園 友渕児童センター」としてスタートしました。

2019年5月園舎の改修工事。海をイメージし美しくリノベーション！！屋根も全面清掃し、シンボルマークの「太陽の塔」も美しく磨かれました。給食室も全面改装し、最新の設備・機器に入れ替えました。



はる

なつ

あき

ふゆ

## 保護者会活動



在園児保護者（助産師）による、「性」についての講演会を開催。子どもの成長にあわせて「性」を正しく理解する貴重な時間となりました。当日、参加できない方にも視聴していただけようアーカイブ配信も行いました。今後は、職員向けの研修や、親子で一緒に開ける内容での実施も予定しています。



毎年ご好評をいただいているリサイクル会では、主に卒園児のご家庭より制服や体操服を提供していただきました。開始時間前から列ができるほどの盛況ぶりです。当日は多くの方に参加、活用していただくことができました。



保護者会役員が主となり活動を企画・運営。シャボン玉パフォーマー「しゃぼたあわお」さんによるシャボン玉ショーを開催。素敵なシャボン玉の演出に、子どもたちは目を輝かせて楽しんでいました。職員向けにシャボン玉指導も行っていただき普段とは一味違った演出方法を学ぶ貴重な機会となり今後の保育にも活かしていきたいと思っております。



# 幼保連携型認定こども園 ひがみや児童センター

## 壁のぼり



平成4年頃から始めた壁のぼりは「知・徳・体」の三位一体のバランスのよい成長を育み、乳児期から幼児期にかけて保育の連続性を大切にして永年取り組んでいます。  
 身体の発達、運動機能の向上だけでなく、  
 《諦めない気持ちを育み「できた!」という達成感から自信を持つこと》・《仲間を励まし、応援し合う気持ち》等、日々の学びの中から子どもの豊かな心の成長を育んでいます。  
 乳児期から体育あそびを取り入れ、3歳児で60cm、4歳児で90cm、5歳児では180cmの壁を登り、跳び下りることを目標に年齢や発達に合わせて日頃からの積み重ねを大切に、取り組んでいます。



## 地域と共に

「東都島地域まちづくり協議会」の演芸会やお祭りに園児や職員も積極的に参加し交流を深めています。また、第三町会の方には、園の行事の度に大きな風船の手作りアーチをいただいたりと、日頃より地域の方々に温かく見守っていただいています。



「東都島地域の民生児童委員」が主催する在宅の方対象の子育てサロンを、園の杜のホールで年に2回開催。12月の東都島小学校のクリスマス会では職員も出し物をするのが恒例となっています。



「都島区保健福祉センター」主催のベビーふれあい教室では、区の保健師や栄養士と共に育児相談を行っています。また、園よりふれあいあそびや手作り玩具の紹介をし、未就園児の子育て家族を支える取り組みをしています。



当園は、昭和51年に開園。当時、東都島地域に保育所と老人憩いの家の併設計画を進めており、同じく療育を必要とする子どもの通園施設（のちの「こども発達サポートステーションそれいゆ」）の計画もあり、初代理事長 比嘉正子の「保育所を含めて友の会が運営します!」との一声で3つの要素を含めた公設民営の施設が建てられました。  
 それいゆと併設施設の為、日ごろの保育の中で子どもたちが交流をしたり、発達が気になる方が気軽に相談をされたり、入所に繋がる流れもできました。

令和元年に園舎の老朽化による建て替え、令和2年には「都島東保育園」から「ひがみや児童センター」に改称しました。《ひがみや》とは東都島地域の省略された愛称でその名称を頂き、より地域に根付いた園でありたいと思っています。また、当法人の創設者(初代理事長)名の「比嘉(ひが)正子」の「ひが」も兼ねた名称でもあり、愛着を感じています。  
 令和3年には「幼保連携型認定こども園 ひがみや児童センター」となり、地域のニーズに合わせ、より多様性を重視した施設運営を行っています。



旧園舎



旧園舎でのプール活動



園舎建て替え時の寄せ書き



令和元年12月  
新園舎完成!



新園舎 建て替え工事



平成30年  
仮園舎での様子

# 幼保連携型認定こども園 桜宮児童センター



園庭にある桜の木、春にはとてもきれいな花を咲かせ近隣の方々にもご覧いただいています。花壇では季節の花や野菜を栽培し、子どもたちが水やりなどのお世話を通して収穫する喜びを味わうことができ、自然と触れ合える環境の中で様々な発見や経験が子どもの成長に繋がっています。



平成3年に「都島桜宮保育園」として開設し、平成29年には都島区の待機児童解消のため都島神社に近い場所に「都島桜宮保育園分園」を開設。平成30年には増設工事に伴い、地下鉄の都島駅近くの仮園舎での生活期間もありました。平成31年4月には保育園と幼稚園の機能を併わせ持つ「幼保連携型認定こども園 桜宮児童センター」に移行し、1号認定（幼稚園枠）の家庭の受け入れも可能となりました。太陽の光が降り注ぐ明るい保育室や、開放感あふれる屋外遊技場、そして、大型遊具もある広い園庭が自慢です。また、大川沿いに近い場所に位置しており、四季を感じながらの河川敷への散歩も容易に楽しむことができます。



旧園舎



仮園舎



新園舎

## 保護者会イベント

保護者会主催でいろいろな行事を企画していただいています。園児を対象とした「移動動物園」や「イチゴ劇場」などは、子どもたちも大喜び！驚きや発見がたくさん詰まった時間を過ごしています。



## 園主催 保護者向けイベント

保護者の方を対象としたイベントを開催。講師の方の話を聞くだけでなく、保護者の方同士で意見を出し合う機会や、バルーンアート作成を経験する機会を設けたり、父親限定の「パパイベント」なども企画。園と保護者とのつながりが深まる機会になっています。



## 地域とのつながり

平成3年の開園から地域の方に見守っていただき、中野連合振興町会の敬老お祝い会に参加したり、都島区まちづくり推進課からJR桜ノ宮駅の高架下ウォールペイントの依頼や、地域の方からのご厚意でジャガイモ掘りのお誘いをいただいたりと、交流を大切にしながら現在に至っています。子どもたちは交流を通して、人との繋がりがりや感謝の気持ちを育んでいます。



## 縦割り保育・異年齢保育



4.5歳児は縦割り保育を行い思いやりや励まし・助け合い・信頼・親しみの気持ちを育てています。  
また2.3歳児クラスも保育室が隣り合う環境を活かして一緒に過ごす機会を多く持っています。



5歳児が0歳児の靴を履くお手伝い

戸外遊び中にお互いを見つけて顔を合わせる姉妹

## 朝の放送・体操

毎朝9時20分に5歳児の朝の放送から元気に一日が始まります。たくさんのレポーターの中からその日の体操を選んで全館放送で音楽を流します。体操のあとはその日の予定や給食の献立を知らせる5歳児みどりくら組はみんなの憧れです。

「ひらがな献立表」を見ながら放送中

## キラキラな未来へ 令和7年11月より園西側の土地に増築工事が始まりました

これまで地下にあった厨房を1階増築部分に移設することで毎日給食を作る様子を見ることができ、匂いだけでなく実際にどんな風にして給食が出来上がってくるのかを観察することで食への興味・関心が深まります。さらに、厨房と隣接したランチルームでは調理員が食べている様子もいつも見ることができ、食べ具合や嗜好もダイレクトに分かり子どもたちとの距離も今以上に近くなりそうです。  
増築部の3階にホール、既存の園舎4階はフリースペースになり雨天時も広いスペースで過ごせたり、地域の方が遊びに来る室内開放としても利用できるようになります。



## 地域の子育て支援の一役を担い保育施設の環境面での充実を図ります

増築に伴い園児数が約50名増員となります。人数が増え、賑やかになる園内でも異年齢児がいつでも交流し、仲良く過ごし、思いやりの気持ちが育まれるよう教育・保育をしていきたいと思えます。なお、増築工事中は在園児と保護者の皆様をはじめ、地域の皆様にご不便、ご迷惑をおかけいたしますがご理解・ご協力をくださいますようお願いいたします。



## 幼保連携型認定こども園 成育児童センター



成育連合第三町会 会長さんへ  
2カ月ごとにカレンダーをプレゼントをしています  
「いつもありがとうございます」

成育児童センターは令和7年9月1日で創立15年を迎えました。当法人の創立80周年を記念して設立された当時は「成育保育園」として運営を開始。平成27年に「幼保連携型認定こども園 成育児童センター」となり平成28年10月には大阪市地域子育て支援事業として「つどいの広場 フレンドリーせいいく」を開所しました。



夏は「セミ捕り」!



園隣にある「コミュニティホール成育」のグラウンドは四季折々に移り行く自然の中で虫を探して落ち葉を拾って…一年中思う存分身体を動かして遊ぶことのできる子どもたちにはなくてはならない「遊び場」です。  
15年前の開園当初から地域にはいつも温かく見守っていただいています。

## キラリン誕生



開園直後、当時の職員のアイディアで誕生した成育児童センターのマスコットの「キラリン」。今では各行事名に「キラリンピック(運動会)」・「キラランド(発表会)」・「キラキラビクニック(遠足)」の名称が浸透し子ども達のキラキラを保護者の方、職員共にみんなで応援しています。

## 保護者会活動

保護者会運営委員会ではコロナ禍以降、年に2~3回のイベントを継続して実施。有志の保護者の方は夏まつりや運動会でお手伝いもいただいています。



令和7年度  
保護者会運営委員会

キラリンピック(運動会)  
有志のお手伝い  
お父さん&卒園児

## 都島乳児保育センターのいいところ

年齢ごとに保育室が区切られず、異年齢がいつでも自由に関わり合える保育室。壁で仕切られていない分、他学年間の交流が持ちやすい魅力の空間。子どもたちにとっても担任保育士はもちろん、他クラスの保育士にも見守られ様々なことに挑戦しています。



お兄ちゃん、お姉ちゃんのおそびに興味津々



一緒に遊ぶの楽しいな～

## 都島乳児保育センターの大切な仲間たち「メダカ」

園内に入るとすぐに目に付く「メダカ」たち。泣いていたり怒っていてもメダカを見るとニコリ。癒し効果抜群です。朝は「おはよう！」帰りは「メダカさんバイバイ」と挨拶をしている子どもたち。メダカも立派な都島乳児保育センターの仲間です。



他学年の保護者の方とも交流できる場

## 保護者との関わり

夕方のお迎えの時間帯で「クリスマス制作会」を行いました。個々に選んだオーナメントにシールを貼ったりお絵描きをしてオリジナルのオーナメントが完成しました。完成したものは、園内の手作りツリーか、玄関前に飾っているツリーそれぞれに親子で飾ってもらいました。



オリジナルオーナメントツリー



### 「2歳児 保育参観」

普段、おいたちの記や保育士との会話を通して子どもたちの様子を伝えていますが、どうしても伝わりにくいニュアンスがあります。そこで！「百聞は一見に如かず」。目貼りをしている保育室を見てもらい、子どもたちの様子を見た保護者の方は子どもたちに気づかれまいと笑い声をこらえ…きれずクスクスと笑い声が。慌てて口元を抑えていました。



## 地域との関わり

ちょっとドキドキしながら「いつもありがとう」

地域の方には「勤労感謝」のプレゼントや散歩時に挨拶を交わすことで交流を持っています。「かわいいね～」と言われるとアイドルも顔負けの笑顔で応えています。



## 都島乳児保育センター

日本が高度経済成長期を迎え、女性の社会進出が増えはじめた1966年（昭和41年）6月に認可を受け開園しました。乳児保育がまだ一般的ではない時代だったので、都島乳児保育センターは乳児の保育園の草分け的存在となりました。開園当初からオムツや布団のリース、持ち込みなしの完全給食をいち早く取り入れ働く保護者にとって画期的でした。設備についても両開きのロッカーや大人の高さに合わせたオムツ交換台があり、職員の働く環境としても整備されていました。



2022年までの園舎

### 時代を先取り！



時代は流れ建物の老朽化のため、2022年（令和2年）6月に新園舎が移設されました。新園舎玄関にあるジオラマは、子どもと一緒に大人もじっくり見て楽しんでいます。新しい保育室では「温故知新」をキーワードに乳児保育をさらに深めています。



2026年（令和8年）6月には開設60周年を迎えます。乳児期にしか味わうことのできない「はじめての出来事」を保護者の方と共に喜びあえることが保育現場の原動力になります。これからも大切な命を預かることを第一に、巣立っていった子どもたちや、保護者の方々がいつでも「ホッ♡」とできる温かい場所でありつづけたいと願っています。

## 毎日の積み重ね

保育室が2階と3階のため必然的に階段を使う機会が多くなります。個々に合わせて昇り降り頑張っています。階段昇降は足腰を鍛え、全身運動にも繋がり脳への刺激も送られ一石二鳥！毎日の積み重ねでとっても上手な子どもたちです。



時々、背伸びをしたくて高い方の手すりも持っています

## 姉妹園とのつながり



3歳児になると姉妹園の、ひがみや児童センターへ進級となり、普段から二園のつながりを意識した保育をすすめています。子どもたちがスムーズに進級できるように、2歳児クラスの毎月のカリキュラム会議を二園で行い、子どもたちの姿に合わせてカリキュラムを見直したり、保育目標を考えたりしています。



## 在宅子育て支援

### 一時預かり事業 「すくすく」

平成4年4月1日から都島第二乳児保育センターでスタートしました。入所までには至りませんが保育が必要な方が週1～3日ほど利用。就労・就学・育児の負担軽減・介護・看病・出産・通院など様々なケースに対応し、どうしたらたくさん寄せられる「預けたい!」の声に応えられるか…。クラス運営との両立には課題も多く、年々増え続ける利用希望の声に応えていけるよう、職員間でアイデアを出し合い、平成15年に一時預かり保育クラス「すくすく組」が誕生しました。



異年齢の友だちと一緒に過ごし、年齢を超えた関わりからいろんなことを吸収しています。



働く女性の増加に伴い、昭和48年5月に、都島病院の閉鎖後、4階建ての2階・3階部分を改修し都島第二乳児保育センターを開園しました。「元気で明るく伸び伸びした子どもを育てる」ことを目標に掲げ、安全で衛生的な環境づくりにも注力し、その後の改修では畳を敷いたコーナーや冬でも寝そべて遊べる床暖房を取り入れ、保育室も乳児の部屋らしくかわいいパステルカラーに塗り替えました。



屋上には、安全に遊べる遊具や、季節折々の植物を育て、収穫も楽しめる菜園もあります。令和元年～令和2年にかけて、園内外の改修工事を行い、キッズルーム、プレイルームなど乳児が快適に過ごせるスペースが整いました。これからも職員一同、安心安全な環境づくりをすすめて参ります。



## 乳児期の成長を大切に



令和2年から0歳児クラスがスタートし、0.1.2歳児の保育園として新たな第一歩を踏み出した都島第二乳児保育センター。乳児期の成長をより大切に、家庭的な雰囲気のもと一人ひとりの成長・発達に合わせ、家庭と園との情報を共有しながら保育を進めています。



### 地域子育て 支援センター 「のびのび」

平成10年に開始し、平成24年には都島コーポの1階に引っ越しました。外からも中の様子が見えるので、「気軽に利用しやすくなった」との声が聞かれるようになりました。在宅の0歳からおおむね3歳までの子どもとその保護者が安心してゆっくりと過ごし、子育てに関する情報交換や友だちづくりの場となっています。また、経験豊富な保育士が子育てに関する講座や育児相談も行っています。



毎月開催される  
ブックスタート

親子でゆっくりゆったり  
過ごせる空間



発見 いろいろ！

高層マンションが立ち並ぶ地域ですが、近隣にはたくさん公園があります。積極的に散歩に出掛け季節を感じ、身体をいっぱい動かし、豊かな感性を育てています。



都島友洲乳児保育センター  
ホームページ&Instagramをチェック

子どもたちの成長やほっこり&キュン場面などなど…HPやInstagramを通して随時、配信しています。“園でこんな風に過ごしているんだ”、“こんな風に成長しているんだ”と写真や動画を通して少しでも感じてもらえると嬉しいです。

ホームページ



Instagram



# 都島友洲乳児保育センター



都島区友洲町には、かつて鐘淵紡績(のちカネボウ)の巨大な工場があり、広大な敷地には社宅や寮、診療所、生協などが揃い、中央研究所や労働会館も配していました。昭和40年以降ドーナツ化現象により郊外への人口流出に悩まされ続けていたため歯止めをかけるべく、昭和57年にカネボウの工場跡地に大型高層住宅群ベルパークシティを建設。時を同じくして、「UR都市機構(旧住宅公団)リバーサイドともぶち」「大阪市住宅供給公社友洲コーポ」「大阪市営住宅」「ベルパークシティアネックス」と高層マンションが立ち並び、ベルパーク開発以降も「ローレルスクエア都島」、元日本製紙(旧十條製紙)工場跡には「セントブレイシティ」と集合住宅の開発が続き、約7,000戸を超す大型高層マンション群となりました。



友洲地域では、毎年のように人口が増加し、低年齢児枠拡大及び待機児童解消のため、平成13年8月1日「都島友洲乳児保育センター」を開設。その後も区の人口は10万人の大台に達し、平成17年には、「都島友洲保育園(現友洲児童センター)分園」を開設し低年齢児枠を増やしました。しかし、友洲地域も開発以降40年が経過すると世帯層も徐々に変化。少子化が進んできたことから17年間0・1歳児保育を行ってきた「友洲児童センター分園」を令和6年3月末で閉設し、新たな一歩を踏み出しました。環境は変化し続けますが、“目の前にいる子どもたち一人ひとりの笑顔を大切にしたい”という保育者の思いはずっと変わらず、日々、安心して安全な保育を楽しんでいます。

## 病後児保育事業の歴史

都島友洲乳児保育センター内にある「病後児ルーム ひまわり」は、平成17年に大阪市乳幼児健康支援デイサービス事業としてスタートし、今年で21年目を迎えます。体調に不安のあるお子様が病気回復期にあることから集団生活が困難であること、かつ保護者の方が就労などにより家庭でも静養が難しい場合に専任の看護師・保育士がお子様をお預かりしています。「病後児保育」は、保護者の方が家庭と仕事を両立する上での「セーフティネット」として重要な役割を果たしており、都島友の会法人内の姉妹園だけでなく、働く保護者の子育ても支援しています。





文化の町で生まれ育ってきた渡保育園では、伝統文化を大切にしたいという思いから、普段の保育からエイサーや琉球舞踊に触れる機会を持ち、創立以来、運動会や発表会で披露してきました。



発表会では年長児の恒例になっている「方言劇」で、沖縄のことば(うちなーぐち)を取り入れています。とはいっても最近では生粋の方言をしゃべることもなくなり、台本を作成する担任は四苦八苦しています。それでもこの文化を大切にしたいという思いからおじー、おばーに聞いてみたりしながら台本を仕上げていきます。発表会後はみんなが方言で話しているのも微笑ましいものです。そういった年長児の姿を年少児も見せていくことで年長児を真似てみたりして「年長児になったらやるんだ!」と目をキラキラ輝かせています。今も尚、先輩から後輩へと伝統が受け継がれ、見る人に感動を与えています。



渡保育園は、首里の城下町である石畳み近くに位置し、初代理事長 比嘉正子の里方、渡嘉敷宗重記念館として建設されました。比嘉正子は父母への思いと故郷沖縄に社会福祉で貢献したいと思っていたところ、初代園長の伊禮答子と運命的な出会いがあり、乳幼児期の重要性から保育園建設をという考えに至り、渡保育園が建設されました。平成18年3月には建て替えて赤瓦の新園舎が完成し、屋根の上の大きなシーサーが子どもたちを見守っています。

素晴らしい園舎での保育環境が整ったことに感謝し、職員みんなで力を合わせて安心・快適・愛情いっぱいの育みをしていきたいと思ひます。



初代園長 伊禮 答子



渡保育園は、石畳道や大アカギなどの文化財に囲まれております。その中でも子どもたちのお気に入りには石畳道! 首里城まで続くその道は多くの観光客にも親しまれるスポットになっています。石畳みを上っていくと、地域住民の憩いの場である「村屋」があり、子どもたちは村屋の前にある大きながゆまるの木の幹につかまって楽しんでいます。

### 金城まつり

渡保育園では毎年金城町まつりに参加し、年長児が地域の方に渡エイサーを披露してきました。しかし、令和2年度に新型コロナウイルス感染症が流行し、金城町まつりも開催されず、地域交流もできない時期が続いていました。今後は金城町自治体と連携を取りながら、地域交流の幅を広げていき、子どもたちが地域に親しみを持ち、地域に根差した園を目指していきたいと思ひます。



## 沖縄の文化にふれて

運動会では、沖縄の文化に触れる取り組みを大切にしています。エイサーや旗頭、ハーリー競争をはじめ、ヌンチャクや棒術による演舞など、子どもたちが日々の保育の中で親しんできた演目を取り上げています。なかでも、年長クラスによるエイサーや旗頭は園生活の集大成として取り組む大切な演目です。これまで積み重ねてきた経験や思いが、一つひとつの動きや表情に表れています。真剣な眼差しで演じる年長児の姿は、下のクラスの子どもたちにとって「大きくなったらやってみたい」という憧れの気持ちを抱く、かけがえのない存在となっています。



仲間と心をつなぐし、最後までやり遂げようとする年長児の姿は、園全体に大きな刺激を与え、子どもたち一人ひとりの次の成長へとつながっていきます。年長児の凛とした姿と、それを見つめる年下の子どもたちの眼差し。運動会は、園の中で大切に受け継がれていく文化や成長の瞬間を感じていただける機会となっています。

## 楽しかった七夕イベント！



七夕の時期には、モノレール市立病院前駅よりお招きいただき、4.5歳児が地域交流の一環として七夕イベントに参加しました。会場では、七夕の歌を元気いっぱいに歌い、日頃の保育の中で親しんできた季節の行事を、地域の方々に披露することができました。人前で歌う経験は、子どもたちにとって大きな自信につながっています。また、当日はテレビの取材もあり、インタビューを受ける場面では、緊張しながらも堂々と受け答えする姿が見られました。自分の思いを言葉にして伝えようとする姿から、子どもたちの成長を感じるひとときとなりました。七夕イベントへの参加を通して、地域の方々に温かく見守られながら、子どもたちは人と関わる喜びや、社会の一員としての経験を積むことができました。

## 松島保育園



開園当初の園舎

昭和57年に開園した松島保育園は、目の前に「那覇市立病院」があり、沖縄では唯一のモノレールも通っており交通のアクセスも良いという立地にあります。また、近隣には公園が多数あり、戸外あそびも充実しております。子どもたちも「どこの公園に行くのかな」と楽しみにワクワクしている姿が見られます。



初代園長  
伊達 政義

平成21年に0.1歳児乳児室、子育て支援室の施設としてみわらび館を建設しました。現在は松島保育園の別館として毎年発表会を行ったり、外部講師に依頼して、園児向けにピアノ教室、地域の方向けにZUMBA(ズンバ)教室を行っています。



みわらび館



現在の園舎

令和3年には園舎の塗装工事を実施し、今年で開園44周年になりますがこれからもさまざまなニーズに応えていきながら沖縄の文化伝承を大切にこれからの未来ある子どもたちと、温かい心を育てていきます。

## 社会的活動を通しての成長

子どもたちが身近な環境に関心を持てる取り組みを行っています。その一つとして、園周辺にある宝口公園で地域清掃活動を行っています。宝口公園は、子どもたちが日頃の散歩コースとして親しんでいる場所です。いつも遊んでいる公園を自分たちの手で清掃することで、「きれいにしたい」「大切にしたい」という気持ちが自然と生まれています。清掃活動を通して、自分たちが住む地域をきれいに保つことや、公共の場を安全で安心して過ごせる環境にすることの大切さを学んでいます。



また、園から公園までの道のりを歩く中で、道順や周囲の様子に目を向け、自分たちの生活と地域のつながりを感じる機会にもなっています。こうした経験を重ねることで、子どもたちの地域の一員としての意識を少しずつ育みながら、身近な環境に目を向ける力を身につけていきます。

## 「一人ひとりとじっくり 関われる環境を」

それいゆでの生活や遊びの様子を保護者と共有し、子どもも大人も楽しいと感じられる時間を大切にしています。年間で様々なテーマで実施している保護者学習会。学びの場から保護者同士の交流に繋がっています。

年に一度のそれいゆ同園会まつり。地域や卒園された方々と近況を報告したり、賑やかなふれあいの場となっています。



職員は保育士、児童指導員だけでなく、心理士・言語聴覚士・作業療法士が療育に参加し、専門的支援アドバイスを一人ひとりに提案。療育や家庭に取り入れながら、子どもの成長発達を促しています。



## 「ひがみや児童センターとの連携」

同じ敷地内にある幼保連携型認定子ども園ひがみや児童センターは、都島子ども園時代から園庭を共有し、子どもたちが行き来したり、一緒に過ごす時間が自然にあります。子ども同士の関わりから生まれる発見が沢山あります。

## 「グループ療育（併行通園療育）」

保育園等に通う発達支援の必要なお子様のグループ療育（併行通園療育）を行っています。見てわかる環境や成功体験は、子どもたちにとってきらきら・わくわくする自信の持てる時間になっています。



## 「放課後等デイサービス」

それいゆの放課後等デイサービスでは、社会のルールや友だちとの関わり方、生活スキルを身につけられるための活動を放課後の時間提供しています。

それいゆでは都島児童デイサービスの廃止に伴い令和8年2月1日から「放課後児童等デイサービス」を実施しています



## こども発達サポートステーション それいゆ



## 沿革・歴史

昭和51年(1976年)

大阪市より運営委託を受け「大阪市立精神薄弱児通園施設都島子ども園」の園名で公設民営の施設として開設  
平成24年(2012年)

児童福祉法改正により知的障がい児通園施設から児童発達支援センターに変更  
平成26年(2014年)

都島区に「都島児童デイサービス」開設  
平成28年(2016年)

大阪市指定管理者制度が終了となり、都島友の会に移管され名称を「こども発達サポートステーションそれいゆ」に変更  
平成30年(2018年)

城東区に「児童デイサービスせいいく」を開設  
令和元年(2019年)

こども発達サポートステーションそれいゆ新園舎完成



## それいゆのイチ押しポイント 特色

- ① 一人ひとりへ丁寧な関わり（春夏秋冬）
- ② 保護者・地域と共に（親子通園・行事）
- ③ 専門的な取り組み（心理発達検査・言語聴覚士・作業療法士）
- ④ 法人内児童センターとのつながり（併行通園）
- ⑤ 就学後の支援（療育）としての放課後等デイサービス



成長の一人ひとりは  
それいゆは



大好きな事、ちょっと苦手な事も安心できる環境の中で、大人と一緒に経験しています。子どもたちからのサインをしっかりとキャッチし「楽しい!」「もう一回やりたい」「ちょうだい」「てつだって」などコミュニケーション力の基礎を毎日獲得できるよう取り組んでいます。

## 戦後の混乱期

児童福祉も何もないまさに混乱した中、困窮した子どもたちのために地域の人達の強い願いから子どもたちの心を取り戻す場所として昭和24年に地域・卒園生の力を借りて建設されました。

「児童館に行けば子どもを預かってもらえる」・「読み書きやそろばんを学ばせてもらえる」と寺子屋的な要素も備えていました。それはまさに現代の政府が打ち出している「安心・安全な場所」・「学童期に必要な経験・活動のできる場所」であり根幹のような姿です。



## 現在の放課後児童クラブ

平成27年度からの「子ども・子育て支援新制度」施行を機に、対象年齢の拡大と基準の策定、放課後児童支援員の資格化などが実施されるようになりました。これからは子どもの発達過程を踏まえ、集団の中で子ども同士の関わりを大切に、時代の変化と流れに沿った充実した支援を図っていきたく考えています。

保護者が就労で放課後保護者が家庭にいない子どもを預かる、昭和26年に開始された「学童保育」は、時代と共に制度が変化していきます。平成2年大阪市の依頼により「子どもの家事業」を開始、平成26年「留守家庭児童対策事業」へと移行してきました。



## いつの時代も子どもたちに「ドッジボール」は人気のスポーツ

本気モードの時もあれば、こども園の園児とするときには、やさしく投げたり取ったボールを渡したりします。年上らしい心遣いをみせてくれるのは、異年齢児との関わりが多い学童ならではの姿です。

昭和



令和



## 都島児童館

子どもたちの個人の尊重を。  
子どもたちにとっての最善を。  
これからは子どもたちの生活の場を。

### 都島児童館に刻まれているもの

都島児童館は学童保育として子どもの安全を守る場であるとともに、学齢期の子どもたちの健全な育成のための成長支援を行う場です。子どもたちが安心して安全に過ごせる環境を作り社会性や自立心を育成できるよう支援し、毎日の自主学習(予習・復習)への取り組みをサポートするなど自分で考えることのできる力をつけることのできるよう支援します。



### 沿革

- 1930年(昭和6年) 都島に青空保育園を開始  
同年、新築園舎の提供を受け「北都学園」設立
- 1931年(昭和7年) 私立「都島幼稚園」に改称
- 1933年(昭和9年) 私立「都島幼稚園」設立認可
- 1941年(昭和16年) 戦況逼迫により大阪府知事より閉鎖命令を受ける
- 1949年(昭和24年) 私立「都島児童館」再建
- 1950年(昭和25年) 「都島児童館保育部」であった「都島保育所」が財団法人都島友の会として設立認可
- 1951年(昭和26年) 学童保育開始
- 1952年(昭和27年) 財団法人から社会福祉法人に組織変更
- 1990年(平成2年) 大阪市の委託により「子どもの家事業」開始
- 2010年(平成22年) 「高倉生活クラブ」「中野生活クラブ」開設
- 2014年(平成26年) 大阪市の市政改革により「子どもの家事業」から「留守家庭対策事業」へ移行
- 2015年(平成27年) 友測学童からの運営委託により「友測生活クラブ」開設  
それに伴い「学童クラブ」も「都島生活クラブ」に改称
- 2016年(平成28年) 都島生活クラブ分室「都島生活クラブ2組」開設
- 2017年(平成29年) 「御幸生活クラブ」開設
- 2019年(平成31年) 「高倉生活クラブ」増員のため移設
- 2022年(令和4年) 「御幸生活クラブ」閉所
- 2023年(令和5年) 「友測生活クラブ」閉所  
「中野生活クラブ」新施設に移設



2019年  
4月

## カフェテリアひまわり OPEN



改修工事で1階ホールは新たにカフェテリアひまわりとして生まれかわりました。オープニングイベントには韓国歌手のハン・ウギョンさんに来ていただき盛大なオープニングになりました。



### 地域福祉の拠点

高齢施設のイメージは外部からみれば、暗い印象を抱かれがちですが、開かれた施設を前提に地域福祉の拠点としても、誰でも立ち寄れる憩いの場所として貢献できる場所として営業を開始しました。ご入所様は勿論のこと、地域の方にも認知されはじめ、今では多くの方にご利用いただけるカフェとなりました。また、カフェスペースを活用しマルシェや笑いヨガ、お花遊びレクなど地域の方が多く参加される、憩いの場所となっています。



### 高齢化が進む現代において

介護施設の需要は増加の一途をたどっています。しかし厚生労働省が発表したデータからも明らかなように、現在、介護現場での人手不足は深刻な問題となっています。2025年には約32万人もの介護職員が不足すると推計されており、この状況が続けば、介護職員一人あたりの負担が増大することは避けられません。過重な業務負担は、介護職員の心身の健康を損なうだけでなく、ケアの質低下や事故、虐待をも招く恐れがあります。これらの課題を解決する手段として注目されているのが、介護施設への見守りカメラ設置です。ひまわりの郷でも2025年12月10日に導入いたしました。本格的に見守りカメラの稼働を始めたのは、2026年1月1日からですが、入所者様の転倒・転落事故を未然に防ぐことができ、すでに数件の実績をあげています。

故比嘉正子は「国民総意でもって、老人福祉を前進させていくことを望む」との思いを持っていました



人口の高齢化と急激な少子高齢化の到来とともに、高齢者の取り巻く社会環境は著しく変化し、高齢者福祉の問題が深刻な課題となっていました。新たな高齢社会のニーズに即応し、また、介護に携わるご家族の負担軽減を図るため、地域の高齢者の方々が、住み慣れた環境の中で健康で安心できる暮らしを提供しています。

### ひまわりの郷の歴史

- 2012年 介護職員略痰吸引開始
- 2015年 外国人雇用始まる
- 2016年 空調リニューアル
- 2017年 入浴機器リニューアル
- 2018年 看取り介護開始  
電話設備リニューアル、介護ソフトウイズマン導入
- 2019年 大改修完了・マッスルスーツ導入、カフェテリアひまわりオープン
- 2020年 サスケ（介護ロボット）導入、オゾン装置リニューアル、新型コロナ感染対策



屋上の改修



### 振り返れば様々な歴史を歩んできました

中でも2019年は大きな変革の年になりました。2019年1月28日から3月28日には、建物の老朽化に伴い大規模な改修工事を行いました。各フロア食堂床の張り替え、クロス張り替え、洗濯設備の撤去、1階天井クロス張替・配管配線工事・器具取付、屋上旧植栽撤去・コンクリート撤去、土間工事・配管配線工事・器具取付、プランター工事・塗装工事・植栽工事など多岐にわたり改修を実施しました。屋上の庭園は整備されて心地よい庭園へ生まれ変わり、6階旧洗濯室は看取り時に家族様にご利用いただけるお部屋としてリニューアルされ、各フロアの床や壁は床がピカピカに光っています。

## 訪問介護ひーぐるま

創立95周年という節目の年に、訪問介護の管理者として「ひーぐるま」に携わることができ、大変嬉しく思っております。同時に、長年にわたり地域の皆様やご利用者様、ご家族の皆様を支えられてきた歩みの重みを感じ、身の引き締まる思いで日々の業務に向き合っています。

訪問介護は、ご利用者様の暮らしに直接関わる責任のある仕事です。だからこそ、現場で支援にあたる職員一人ひとりを大切に、安心して働ける環境づくりを心がけながら、支え合い、信頼し合えるチームづくりを進めてまいります。そして、ご利用者様に寄り添った、あたたかい支援を大切にしていきたいと考えています。また、地域に根ざした事業所として、ご利用者様やご家族、関係機関の皆様とのつながりを大切に、これからも地域の中で必要とされる訪問介護であり続けたいと思います。

創立100周年に向けて、これまで受け継がれてきた想いと実績を大切にしながら、時代の変化や多様なニーズにも柔軟に向き合い、質の高いサービスの提供を目指してまいります。今後も、ご利用者様が安心して自分らしい生活を送れるよう支え続けるとともに、信頼される「ひーぐるま」であり続けられるよう、管理者として誠実に取り組んでまいります。



管理者 角田 知絵



## 居宅介護支援事業所

当法人は、地域の皆さまに支えられながら95年という長い歴史を歩んでまいりました。その歩みの中で培われた信頼と実践を礎に、これから迎える100周年に向けても、時代やニーズの変化に柔軟に応え、より質の高い支援を提供していきたいと考えています。

高齢者の方々が住み慣れた「わがまち都島」で、これからも安心して暮らしていただけるよう、私たちは施設理念の一つである「一人ひとりの生活を重視し、状況に応じた自立を個別的に支援します」を大切に、日々の支援に取り組んでまいります。また、地域の方々や医療・福祉をはじめとする各種関係機関との連携を一層深めながら、ご家族の「介護力」やご本人が持つ力を引き出すための一助となり、地域に根ざした居宅介護支援事業所として、これからも歩み続けてまいります。

リーダー 野崎 英美子

## 友渕地域在宅サービスステーション

## ひまわり



## 27年の歩みとこれから。

友渕地域在宅サービスステーションひまわりは、平成11年2月、大阪市の委託を受け、「大阪市高齢者デイサービス事業」および「大阪市在宅介護支援センター事業」を開始しました。介護保険制度が始まる1年前のことです。平成12年4月、介護保険制度のスタートとともに、「通所介護事業（デイサービス）」「指定居宅介護支援事業」「在宅介護支援センター」として新たな一歩を踏み出しました。

それから早くも27年。振り返れば、この歩みは常に地域の皆さまに支えられてきた27年あったと感じています。近年、友渕地域においても高齢化が進み、暮らしや介護に対するニーズはますます多様化しています。そうした地域の声により柔軟にお応えするため、昨年4月には訪問介護事業所「ひーぐるま」の事務所を都島本通から友渕へ移転し、より身近な支援体制の強化を図りました。

昨年12月より当ステーションのセンター長を拝命いたしました田中です。これまで積み重ねられてきた「ひまわり」の歴史と想いを大切にしながら、職員一同、地域の高齢者の皆さまが住み慣れた環境の中で、健康で安心できる暮らしを続けていただけるよう誠心誠意取り組んでまいります。これからも友渕地域在宅サービスステーションひまわりは、地域に根ざした身近な存在として、皆さまに寄り添い続けてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



センター長 田中 浩司

## 通所介護

友渕地域在宅サービスステーションひまわりは、平成11年2月、大阪市の委託を受けて大阪市高齢者デイサービス事業（通所介護）を開始しました。通所介護の運営にあたっては、これまで数多くのボランティアの皆さまにご協力をいただけてきました。楽器の演奏会や俳画教室をはじめ、日々の洗濯やプローのお手伝い、夏の盆踊りなど、四季折々の行事を温かく彩っていただきました。また、地域への感謝の気持ちを込め、毎月1日には「おつたち」として地域の方々をお招きし、食事サービスを実施しています。

令和6年には、より専門的で安全な機能訓練を提供するため、リハビリ室を新たに完備しました。身体機能の維持・向上を目的とした個別リハビリや、日常生活動作を意識した運動を行うことで、ご利用者様一人ひとりの状態や目標に応じた支援を行っています。無理のないリハビリを継続することで、転倒予防や体力の維持につなげ、住み慣れた地域での自立した生活を支えています。

近年、友渕地域においても高齢化が進んでいますが、これからも地域の高齢者の方々が、住み慣れた環境の中で健康で安心して暮らし続けていただけるよう、地域に寄り添った支援を行ってまいります。

管理責任者 中田 純

「先の見えない」「終わりのない」相談が多い

切れ目のない支援（ネウボラ）のためには、地域での見守りと医療、福祉との連携ネットワークが必要だと考えています。

どんなトコロ？なにをしているトコロ？

「ひだまり食堂」から「カフェひだまり」へ

「いつもご飯はひとりで食べている…話す相手もない！」の声から始まった保育園の給食室が作る「給食ランチ」。安心安全な食材を使い、給食室の栄養士が作る、栄養バランスの良い「お昼ごはん」です。

コロナ緊急事態宣言発出後ひだまり食堂はお休みになり、令和5年4月にコミュニティカフェ「カフェひだまり」が開設。

現在は月に1回「給食ランチの日(カレーライスの日)」を設け、地域の子育て家庭の親子や高齢者の方が食事をしたり、お喋りをしたり、ゆっくりと過ごせる場所となっています。



心の居場所づくり

いいね！文庫



絵本・コミック本など様々な種類の本を地域の方々からいただき生まれたミニ図書館です。令和5年5月より絵本ひろばのスペースもでき、年齢やジャンルを問わない本を段ボールの面展台上に表紙を見せて置く「ひろば本」を楽しめる場所となりました。子どもから大人まで、気に入った本を自由に手に取り、自分のペースで自分時間を楽しむ心地いい空間です。1階「カフェひだまり」に並べられた絵本、コミック本などは、児童館の子どもや保護者だけではなく、地域の子どもたちも手に取りほっこりと楽しめる場所になっています。

講演会・研修会・在宅子育て家庭の育児支援講座



法人職員のスキルアップの向上をはじめ、元気な町、住み良い地域づくりのお手伝いとして様々な取り組みを行っていきたくと考え、子育てにかかわる講座や研修会、親子や老若男女、誰もが楽しめる趣味の講座や講演会、懇談会なども実施しています。

職員資質向上研修

専門知識の向上、職務・職責に応じた処遇改善のため、専門性の強化や専門的なサポートを行うための確かな知識とスキルを目的に身につく研修を実施しています。

比嘉正子記念室

日本の消費者・婦人運動のバイオニアとしての比嘉正子の紹介

法人の創設者比嘉正子はずねに生活者の視点に立って、困っている人、弱者に対して支援を続け、保育所や児童館など乳幼児や障がい児、高齢者支援など社会福祉事業を行うとともに、戦後、日本の消費者・婦人運動のバイオニア、リーダーとして活躍しました。

比嘉正子記念室は平成27年8月に開設。日本の消費者・婦人運動のバイオニアとしての比嘉正子の姿を当時の文献や資料、映像を通してご覧いただくことができます。



比嘉正子地域貢献事業研修センター

ひまわりネット 法人設立80年記念事業として設立して15年

平成23年9月(2011年)「子育て・障がい・介護なんでも相談室 ひまわりネット」を開設

法人の創設者比嘉正子の強い思いである「制度の枠組みからこぼれ落ちた人々を救わなければならない」を継ぎ事業を開始

社会福祉法人都島友の会はその志を継承し、より地域に密着した窓口となる

平成25年9月(2013年)



地域に貢献する社会福祉活動を実施する

「比嘉正子地域貢献事業研修センター」と名称変更し、「地域の力 小さな支え合い」をスローガンに。様々な問題を抱えている人たちに寄り添い、専門機関への橋渡し役となり、より敷居の低い相談しやすい窓口に充実。



人とつながる 地域とつながる

都島友の会創設者比嘉正子の志を継ぎ、ひまわりネット開設に尽力した諸先輩方は、様々な問題を抱えている人たちに寄り添い、専門機関への橋渡し役となり、より敷居の低い相談しやすい地域の窓口として地域とつながってきました。これからも、私たちは比嘉正子の志を継承し、地域福祉の一員として「心の居場所づくり」をめざしていきます。

年譜及び関連事項 15年のあゆみ

- 平成23年(2011年) ●子育て・障がい・介護なんでも相談室 ひまわりネットを開設  
\*講座 公演会実施 ・福祉人材登録スタート
- 平成24年(2012年) ・大阪市都島区社会福祉協議会主催：東北支援ボランティアに参加  
・災害支援「11ね！物産展」スタート
- 平成25年(2013年) ●比嘉正子地域貢献事業研修センターに名称変更  
\*いいね！文庫：スタート ・市民後見人講座
- 平成27年(2015年) ・ひだまり食堂：スタート ・介護職員初任者研修：開講  
\*比嘉正子記念室開設
- 平成28年(2016年) \*アウトリーチ型研修：開講
- 平成30年(2018年) \*保育士等キャリアアップ研修：開講
- 令和2年(2020年) ・コロナ緊急事態宣言発出  
全ての研修延期 / ひだまり食堂お休み
- 令和5年(2023年) \*カフェひだまり：スタート
- 令和7年(2025年) \*カフェひだまり：カレーライスの日(月に1回)  
\*については、現在も実施を継続しています



法人本部事務局は、1965年（昭和40年）から1975年（昭和50年）代初期に都島友の会の事業が急速に拡大したことから、従来の施設ごとの独立採算制の運営から、人事・給与・予算・施設管理などの業務を統括的に行うため、1978年（昭和53年）に設立しました。

以来、都島友の会の円滑な運営を支える管理部門として本部事務局が大阪と沖縄に配置されています。本部事務局では、日々、各施設担当者が、施設の経理・給与・社会保険などを集約処理しています。また大阪市・那覇市をはじめ関係機関との連絡調整のほか、各種申請・監査対応などを、施設長とともに行っています。

法人運営に関しては、業務の進行管理とともに、予算・決算のほか、施設整備・新規事業など重要な経営課題について取りまとめ、理事会・評議員会に諮る経営企画業務を行っています。

## ～95th Anniversary～

本部事務局は、法人の定款及び諸規程を遵守し、適正な業務執行に努めるとともに、安定的な財務基盤の確立、法人の財務状況の公表など、透明性の高い財務管理を推進しています。

近年、急速な少子化とともに超高齢社会が進展する中で子ども・子育て支援法改正、介護保険法の改正、また社会福祉法の改正など、福祉関連の法改正・制度改正が相次ぎました。法人事務局は、これに伴う規程整備を行うとともに、新制度の実施にあたり各施設と準備・事業調整を推進してきました。

今後、社会福祉法人、そして都島友の会を取巻く諸課題をタイムリーに整理し対応していくためにも創立95周年を機に、法人事務局のシステムを整備していくこととしています。

## 95周年事業として

### 施設整備

これまで周年事業として各施設の整備を進めてきましたが、95周年事業として、現在、城東区にある幼保連携型認定こども園成育児童センターの増築工事を進めています。竣工は令和8年10月末の予定で、定員は96名から153名となります。

### 記念事業

都島友の会は、1931年（昭和6年）の創立以来、「地域とともに」を合言葉に、地域の皆様のお支えをいただきながら児童・高齢者福祉事業を進めてきました。

95周年を迎え、地域の皆様や保護者に、これまでの都島友の会の歩みと、各園の子どもたちの演技を紹介する「記念の集い」を、令和8年秋に開催します。

### 「てえーだの花 比嘉正子、その愛」刊行

令和6年の「比嘉正子 GHQに勝った愛」の発刊、令和7年の小説「蒼天に咲くひまわりの愛」のWeb連載に引続き、比嘉正子物語第3弾として、創立95周年にむけて都島友の会創設者比嘉正子の福祉精神・保育理念に焦点を絞り、比嘉正子が実現しようとした保育、そして保育を軸に実現を目指した地域社会づくりを描く冊子「てえーだの花 比嘉正子、その愛」を刊行します。

### 「比嘉正子 GHQに勝った愛」

今も戦禍に苦しむ世界の子どもたちへ比嘉正子の「愛の物語」



オンライン書店で購入できます



Amazon



楽天

Web連載 比嘉正子物語

全48話「蒼天に咲くひまわりの愛」

日本の保育のバイオニアとして、児童福祉の発展に尽力した、社会福祉法人 都島友の会創設者 比嘉正子の軌跡を辿る物語

Web小説はこちら→  
<https://lab-rta.com/>



## 本部事務局(大阪本部)

〒534-0021 大阪市都島区本通3-4-3  
TEL 06-6921-0321 FAX 06-6924-2055





発行人：渡久地 歌子  
発行：社会福祉法人 都島友の会  
<http://miyakojima.or.jp>  
ゆんたく都島 編集部  
〒534-0021  
大阪市都島区都島本通3-4-3  
TEL：06-6921-0321  
FAX：06-6924-2055